



〒225-0024 青葉区市ケ尾町 31-4(青葉区役所 1F)
 TEL : 978-3327 FAX : 972-6311
 Eメール : ao-machikatsu@city.yokohama.jp
 ホームページ [青葉区区民活動支援センター](#) [検索](#)
 〈開所時間〉月曜～金曜 8:45～17:00 第2・4土曜 9:00～12:00
 〈休所日〉第2・4土曜以外の土曜、日・祝日、年末年始(12/29～1/3)

2021年 1月 第22号



センターからのお知らせ

第18回まち活カフェを開催します！ テーマ「地域企業との連携」

地域や社会の課題解決に向けては、NPOなどの市民活動団体・企業・大学などの様々な主体がそれぞれの強みを活かして連携し、相互に協力しあえる関係が必要です。CSR活動を通じて地域と関わり地域・社会課題の解決に向け取り組んでいる企業の話等を伺い、皆が安心して暮らすことができる青葉のまちのためにどのように連携していけるかを考えてみませんか？

- ◆開催日時：1月21日(木) 10時から45分程度 ◆会場：区民活動支援センター(区役所1階)
- ◆参加費：無料 ◆定員：15人 ◆申込み：要予約(前日まで、先着) 青葉区区民活動支援センター
- ◆ゲストスピーカー

ソフトバンク株式会社CSR本部参与/
 ヨコハマSDGsデザインセンターコーディネーター 鳥居郷一さん



横浜市を中心に社会貢献活動を推進。ICTによる課題解決として人型ロボットPepperを使った教育支援やスマートフォン・タブレットを活用した部活動遠隔指導支援等も実施。社会貢献活動の注力テーマは、持続可能な社会づくりのための「情報化社会の推進」「次世代育成」「多様な社会への対応」「環境・資源対策」「災害対策復興支援」の5つ。

※感染症拡大防止のため、中止または内容を変更する場合があります。

まち活Report

「伝えたい相手を知る」ことがポイント！ 11月27日(金)
 ～「伝えたい人に伝わる情報発信の基礎」講座～

広報の基礎を学ぶ本講座は、東京都杉並区広報専門監の谷浩明氏を講師にお迎えし、市民活動がより広がり、つながり、活性化するための情報発信の基礎を教えてくださいました。“伝わる”情報発信をするには、伝えたい目的、相手、内容から、目指すゴールまでをイメージし、継続することが大事だとのことでした。グループワークや質疑応答では、参加者の皆さんからも積極的な発言があり、この講座をきっかけに、新たな考えや気づき、ヒントを持ち帰っていただけたと感じました。

講師の谷浩明さん



会場の様子

〈今月のまち活ギャラリー〉

◆1/4(月)～1/29(金)

「まち活カフェ報告」

青葉区区民活動支援センター

※展示募集中！2/1(月)～2/12(金)
 登録団体・まち活パートナーズの皆さんの活動紹介にご活用ください。

〈今月のパネル〉

◆活動団体紹介

「趣味・実用/
 娯楽・ゲーム/
 語学・国際交流①」
 編

〈今月のFMサールス〉

「なしかちゃんコーナー」

【1/12(火) 11:05頃～】

おもしろ科学たんけん工房横浜北1地区
 科学体験塾の開催、学校支援・地域出前塾など
 を実施しています。



活動団体紹介

横浜オーバークールズ



まち活コーディネーターが行く！

元気な歌声を届けたい！～「音健アワード 2020 特別奨励賞」受賞～

11月号に訪問取材の募集記事を掲載したところ、第一番に横浜オーバークールズさんから「音健アワード2020で特別奨励賞をいただきました！取材に来てください」との一報が入りました。

音健アワード（「音楽と健康アワード」略称）は“高齢者の介護予防と生活機能改善にうたと音楽のチカラを”をコンセプトにしている一般社団法人日本音楽健康協会が主催している賞です。2020年度のテーマは「認知症」で、認知機能低下予防と重度化防止をテーマにした音楽レクリエーションでした。新型コロナの影響で6月に練習を再開したものの施設等での公演を再開できない状況の中、受賞の知らせはとても嬉しかったそうです。

お伺いしたときは、手作りのピンクの花柄の“歌えるマスク”姿でソーシャルディスタンスを取りながら練習の最中でした。マスクを通して元気いっぱいの歌声とパフォーマンスは変わらず、歌声が体に響き聴いている私も元気をいただき「生の歌声はいいな！」と実感しました。

「ライブで歌声を届けたい！」の方針で動画配信は予定していないとのこと。感染防止に努めながら活動する横浜オーバークールズさんの歌声とパフォーマンスを聴きたい施設や自治会などの皆さん、区民活動支援センターへお問合せください。

(2020. 11. 16・Y)



練習風景。マスクをしていてもパンチの効いた歌声は変わりません。

【活動内容】

歌うことが大好きな40代以上のグループです。

地域ケアプラザや高齢者施設等で昭和歌謡と横浜オーバークールズオリジナル曲を歌い、楽しく元気なパフォーマンスと歌声をお届けしています。

詳しい活動内容は [yokohamaovg](#) [検索](#)

メンバー募集中！

公演依頼をお待ちしています！



「活動団体紹介」コーナーでは、まち活コーディネーターが訪問し、皆さんの活動をレポートして紹介します。活動をPRしたい団体を募集中です！



たまプラーザ・みまもりあいプロジェクト ～やさしさのエネルギーチャージ～



まち活コーディネーターが行く！

活動団体紹介

～会えない時も地域をつなぐオンラインカフェ～ある人・ない人カフェ～

たまプラーザ・みまもりあいプロジェクトは、社団法人セーフティネットリンクージが開発した「互助をICT技術がサポートする」、誰もが参加できる見守りシステム「みまもりあいプロジェクト」を活用し、誰かを見守るのではなく誰もが見守りあえる『お互い様の街』を住民主体でつくることを目的として活動をし、その一環として、子どもから高齢者まで多世代の地域住民の交流の場づくりもしています。このコロナ禍でも Zoom を使用し、オンライン（ハイブリッド）カフェを定期的に開いています。

「11月26日（木）にカフェをするので来てください」とお誘いを受け、行ってきました。場所はたまプラーザのおしゃれな「3丁目カフェ」。多くの市民活動の拠点となっています。カフェはオンラインで複数の集会所・個人の自宅等をつなぎ、3密を避けて実施されました。認知症のご家族の介護・看取りを経験した講師が、看護師である知見を活かし「当事者になってからしか分からないこと」をお話された後、参加者との意見交換を行いました。「認知症になったからと言って何もわからないわけではない」「普段から介護が必要になったらどうして欲しいか聞いておく」「本人の尊厳を尊重することで介護が楽になる」等、貴重な意見が伺えました。認知症のご本人や周りの方にぜひ聞いていただきたい内容でした。

1月以降もオンラインカフェが実施される予定だそうです。オンラインなら離れた場所からも参加できます。ご興味のある方はいちどカフェを訪問してみたいかでしょうか？

- ・2021年1月26日（火）10:00～11:30 ゲスト：北川なつ氏 介護マンガを連載中の漫画家
- ・2021年2月25日（木）10:00～11:30 ゲスト：丹野智文氏 認知症本人大使「希望大使」

※詳細は [たまプラーザみまもりあいプロジェクト](#) [検索](#)で (2020. 11. 26・SJ)

みまもりあい プロジェクト

1. 検索依頼
「おばあちゃんが見えたらいい！」専用アプリの捜索依頼ボタンを押すと、協力者に捜索協力依頼が配信されます。
「捜索者情報」配信
あなた(協力者)

2. 発見
発見したら、捜索者情報に表示されているフリーダイヤルに連絡してください。ID番号を入力すると直線依頼者に電話がつながります。(その際、あなたの電話番号等の情報は依頼者には表示されません)
「発見」のお礼配信
あなた(協力者)

3. 確認
無事保護を確認したら依頼者が「発見」ボタンを押します。すべての配信先にお礼の通知が配信され「捜索者情報」は自動消去されます。
あなた(協力者)

みまもりあいシステム

参加者でやさしさのエネルギーチャージ



お揃いのTシャツで



講師の岡田さん





“NPO 法人街の家族” になりました。こんな時だからこそ、この場所が必要！

「新しい生活様式」時代の市民活動紹介として Info まち活 8月号にて“街の家族”さんの活動の様子を電話で取材し、紹介しました。その後、「NPO 法人になりました。遊びに来てください！」とセンターにご挨拶に来られ、久しぶりに訪問させていただきました。

「外出自粛期間以降、定例イベントはお休みをしています。現在は、来られる人たちが穏やかに共有できる場として安全管理を徹底して利用してもらっています。」と笑顔で迎えてくれた“街の家族”の皆さん。

ここで三世代が対話し、知り合い、人とつながる喜びを感じ、それを体感することができてうれしいというママ世代。そこに来る子どもの成長と一緒に喜び、子育てのアドバイスや料理を教えることが生きがいにつながり、元気になったというシニア世代。世代間の関係性が生まれ、お互いを理解し合っているからこそ、自然な形で人を活かすことができ、この場所に自然と人が集まるのだと思いました。皆さんとお話をしている、いつの間にか私も、こちよい安心感に包まれていました。

「NPO法人となった“街の家族”は今、変換期に来ている。これからは、地域の中に小さな居場所がたくさん生まれ、ママ世代とシニア世代が一体となって運営していく仕組みができればいい。それぞれの地域の特性を生かした居場所と居場所、関係施設がつながり、網の目のようにネットワークができ、集まなくてもつながることができたら。そんなことを色々考えるだけでも楽しいんです。」と事務局の小笠原さん。「活動は制限されていますが、それぞれができることをみんなで協力し合い、ソーシャルディスタンスを心掛け、楽しみながらいろいろな企画に挑戦しています。こんな時だからこそ、この場所が必要なんです！」と理事長の押久保さん。地域の中で人とつながりながら暮らすことの大切さを改めて教えていただきました。支援センターでは、今後も“街の家族”の皆さんの思いを共有し、実現するお手伝いをしていきたいと思ひます。活動の詳細は [NPO 法人街の家族](#) [検索](#) でご覧ください。(2020. 12. 1・SW)



毎月発行の街だより
その他 HP、SNS で
地域に発信しています。

「街の家族」の皆さん



「みんなのキッチン」
はいつでも再開できる
よう準備しています。

【編集後記】令和3年が始まりました。昨年は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、生活様式が様変わりしました。活動団体の皆さんも人が集まることができなくなり、活動の方法等を見直していらっしゃる方も多いのではないのでしょうか。今月号はそんな3団体の紹介をしています。歩みを止めることなく共に行きましょう。本年もどうぞよろしくお願いいたします。(Y)

【まち活】とは？ 区民の皆さんが青葉のまちで活き活きと活動し、まちをさらに元気に・魅力的にしていたくことをまち活と呼んでいます。あなたのまち活を青葉区区民活動支援センターがコーディネートします！